

6月議会一般質問 6月10日午前10時から 笹田議員荒崎水害裁判結審を受けて 荒崎地域の水害対策等について質問予定

6月議会は6月3日から17日まで開催されています。6月10日に一般質問が行われます。私・笹田は 荒崎水害対策、 保育園における防災対策、 大垣市民病院中期計画の3件について質問する予定です。時間は10日13時頃になります。ぜひ傍聴をお願いします。
大垣市議会議員 笹田トヨ子

市長は荒崎住民の苦しみを 真摯に受け止めよ

荒崎水害裁判の控訴審が5月24日で結審となりました。原告の佐藤信一さんが意見陳述で「県は洗堰を越流堤ではなく低い堤防の一部と主張しているが、増水したときはそこからあふれるように洗堰が置かれているのははっきりした事実。平成19年に嵩上げされたが、依然として越流堤構造になっている。雨が降るといち早く避難勧告が出される地域である。」「洗堰の嵩上げがすぐにできないとしても、その間現実的には荒崎地区の被害を防止、軽減できる方法はあったはず」「行政には住民を災害から守る責務があるはず。荒崎地区の住民も、他の地区の住民と同様に住民としての責務を果たしておりますし、対等の権利があるはず。上下流の安全を守るといふなら荒崎地区の住民の安全を守ることが当然のはずです」と訴えておられます。市長は荒崎住民の不安や苦しみをどう受け止めておられるのか。どのような対策を考えておられるのかお聞きしたい。

東日本大震災の教訓生かし 保育園の防災対策を

今年の5月に東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県県の保育施設などを視察しました。震災で保育中に亡くなった子どもは一施設3名で、多くの犠牲者がでた震災の中では、奇跡に近いと言われています。東北地方の保育施設では震災時津波を想定して日頃から避難訓練を行うなど、自力避難ができない10才からの命を預かっている施設の取り組みがありました。私たちも大いに学ぶべきものがありました。地震や水害など災害時における保育園など乳幼児施設の対策についてお聞きします。

何を想定し、どのような訓練が行われているのか、責任体制は？、大規模園の場合はどうするのか。地震時、安否確認や連絡方法、お迎えのルールなどは？

市民病院中期計画の 豊かな達成のために

1) 7:1看護体制を目指す

看護師確保について

ここ数年看護師確保について努力されているが、その

成果はあまり見えません。なぜ増えないのか？病院当局の見解をお聞きします。

採用する数もさることながら、退職者数も相当数になります。なぜ辞めるのか、定着させるための対策などお聞かせください。

経験者の看護師も相当数退職しています。これを防ぐ手立てはありませんか？

2) 医療安全対策の充実について

「インシデント・アクシデントレポートの有効活用を図る」とありますが、各職種のインシデント・アクシデントレポートの現状を明らかにし、どのように評価されているのか、どこに問題を感じておられるのか、またその対策等について質問します。

3) 在宅医療への支援について

高齢化等に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯等、退院する上で支援が必要なケースは増えています。市民病院における退院時支援の現状をお聞かせください。

退院困難な要因を有する患者の抽出及び退院支援計画の作成など、支援を必要としている人をどのように把握し、退院後の在宅医療や介護サービスなど退院調整の現状を明らかにしてください。

岡崎市民病院は「退院支援介入依頼シート」のように、入院当初から退院支援を必要とする人を把握し、病棟から地域医療連携室に依頼します。大垣市民病院も院内連携を密にし、入院当初から患者のニーズをつかんで退院後の在宅療養につないでいかかが。

退院支援の目的は、患者に退院後も継続した医療や看護・介護の提供することであり、患者のニーズを地域の医療・介護の機関につなぐことと言われているが、出来ているのでしょうか。